

聖書日課 『からし種』 2023.12.24-12.31

<p>12月24日 (日)</p> <p>詩編 40編</p>	<p>「滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ／わたしの足を岩の上に立たせ／しっかりと歩ませ／わたしの口に新しい歌を／わたしたちの神への賛美を授けてくださった」(3-4節)。どん底な人生を歩んでいた者たちを、しっかりとした土台の上に立たせ、神への賛美を心から捧げるものへと変えてくださる方が来られる。クリスマスを喜びたい。</p>
<p>25日 (月)</p> <p>詩編 41編</p>	<p>「主よ、どうかわたしを憐れみ／再びわたしを起き上がらせてください。／そうしてくだされば／彼らを見返すことができます」(11節)。詩人は「自分を苦しめている敵から助けて欲しい」と懇願している。そして、再び起き上がれたら敵を見返す(報復する～岩波訳)ことができる。ここに人の罪深さを思う。イエスの十字架の贖い以外には救いはない。</p>
<p>26日 (火)</p> <p>詩編 42編</p>	<p>「神を待ち望め」(6節)。これはバビロンでの長きにわたる捕囚生活の時の歌だとされている。この詩を歌った人たちにとって一番の苦しみは「お前の神はどこにいる」というあざけりだった。イスラエルの民の魂はうなだれた、とある。だが、彼らはなお神を待ち望んだのだ。神がこの世を支配していることを信じ、苦しみからの解放を待ちたい。</p>
<p>27日 (水)</p> <p>詩編 43編</p>	<p>「なぜうなだれるのか、わたしの魂よ／なぜ呻くのか。神を待ち望め」(5節)。現実が力あるものの意のままになっているように見えたとき、大きな動揺を覚えたのだろう。しかしなお神を待ち望んだ詩人の信仰をみる。うなだれることの多い私たちだが、イエス・キリストの十字架の贖いが私たちにとっての力であるなら待ち望むことができる。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.12.24-12.31

<p>28日 (木)</p> <p>詩編 44編</p>	<p>「我らの心はあなたを裏切らず／あなたの道をそれで歩もうとはしませんでした」(19節)。詩人は神に従って歩んできたのに、死の陰に覆われてしまっている現状を嘆き、神に助けを求めている。今のイスラエルとパレスチナの状況を見て、私たちも『立ち上がって、彼らをお助けください。あなたの慈しみを表してください』と祈りたい。</p>
<p>29日 (金)</p> <p>詩編 45編</p>	<p>「神に従うことを愛し、逆らうことを憎むあなたに／神、あなたの神は油を注がれた」(8節)。これは王の結婚式に詠まれた歌であろうと言われている。王になるときは神から油を注がなければならない。この大いなる栄光を詩人は讃えている。この栄光に応えるには、神の前に忠実なものとして生きて行く必要がある。私たちも同じだろうと思う。</p>
<p>30日 (土)</p> <p>詩編 46編</p>	<p>「万軍の主はわたしたちと共にいます。ヤコブの神はわたしたちの砦の塔」(8・12節)。たとえ天変地異が起こっても恐れないとこの詩人は歌っている。「明日のことを思い煩うな」と聖書では言われている。神が近き助けなのだから思い煩う必要はない、ということだろう。私たちもどんな状況でも神が共におられることを信じて生きていこう。</p>
<p>31日 (日)</p> <p>詩編 47編</p>	<p>「すべての民よ…神に向かって喜び歌い、叫びをあげよ。主はいと高き神、畏るべき方／全地に君臨される偉大な王」(2-3節)。2023年の最後の日、主なる神の「偉大さ」を賛美し礼拝をささげたい。マリアは「主のはしために目を留め、身分の低い者を高く上げ、飢えた者を良い物で満たす主の偉大さ」を賛美した。わたしたちは何に目を留め、賛美するのか。</p>